

研究課題名	手指狭窄性腱鞘炎に対する鏡視下腱鞘切開術における皮膚表面接着剤の有効性の検証
研究の意義・目的	手術創の閉創法として縫合系による閉創や皮膚表面接着剤による閉創などがあります。皮膚表面接着剤のメリットとして、術後早期のシャワー浴が可能であること、抜糸が不必要である等のメリットが期待できます。今回、手指狭窄性腱鞘炎に対する鏡視下腱鞘切開術における皮膚表面接着剤に対しての有効性を明らかにすることが本研究の目的です。
研究を行う期間	研究期間の長の研究許可日～2026年12月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	大阪公立大学医学部附属病院の整形外科で、手指狭窄性腱鞘炎に対して鏡視下腱鞘切開術を受けられる方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	手術前後の治療成績(アンケート、創部の状態等)を本研究に使用させてください。
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院整形外科のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院整形外科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 整形外科学 研究責任者 岡田充弘
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪公立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 整形外科学 (担当者氏名) 岡田 充弘 電話番号：(06) 6645-3851 メールアドレス：m-okada@omu.ac.jp